

# Shavlik

—  
アップグレード ガイド



shavlik

## 著作権

Copyright © 2009 - 2014 LANDESK Software, Inc. All rights reserved. この製品は、米国およびその他の国における著作権法および知的財産法ならびに国際条約によって保護されています。

LANDESK Software, Inc. の書面による許可なく、購入者の個人的な使用以外の目的のために、本書のいかなる部分も、あらゆる形式において、あるいはコピーおよび記録を含む電子的、機械的、またはその他の手段において、複製または再送信することが禁止されています。

## 商標

LANDESK および Shavlik は米国およびその他の管轄地域における LANDESK Software, Inc. の登録商標または商標です。本書に記載されているその他のすべてのマークおよび名称は、各会社の商標である場合があります。

本書に記載されているその他のすべての商標、取引名、または画像は各所有者に帰属します。

## 文書情報および印刷履歴

文書番号: 該当なし

日付	バージョン	説明
2010 年 9 月	NetChk Protect 7.6	製品ブランドを更新、新しい 7.6 機能と改良に関する情報を追加。
2011 年 3 月	NetChk Protect 7.8	新しい 7.8 機能と改良に関する情報を追加。
2011 年 10 月	VMware vCenter Protect 8.0	製品ブランドを更新、8.0 アップグレード タスクに関する情報を追加。7.5 よりも前のバージョンに関する情報をすべて削除。
2011 年 12 月	VMware vCenter Protect 8.0、文書改訂 A	アップグレード処理を開始する前に、データベースの圧縮方法を説明する手順を追加。
2012 年 9 月	VMware vCenter Protect 8.0.1	製品名、バージョン、および表紙のグラフィックスを更新。
2013 年 5 月	Shavlik Protect 9.0	システム要件を更新。新しい v9.0 機能と改良に関する情報を追加。
2014 年 4 月	Shavlik Protect 9.1	システム要件を更新。新しい v9.1 機能と改良に関する情報を追加。

## はじめに

---

### このガイドの目的

Shavlik Protect 9.1 を使用する前にここでは、VMware vCenter Protect 8.x または Shavlik Protect 9.0 から Shavlik Protect 9.1 にアップグレードする方法について説明します。現在、Protect 8.x よりも前のバージョンを使用している場合は、9.1 にアップグレードする前に、8.x にアップグレードする必要があります。

この文書では、アップグレード手順を説明する他に、Shavlik Protect 9.1 にアップグレードするときに理解しておくべきさまざまな機能の違いを一覧で示します。また、大幅に変更されたユーザ インターフェイスの領域についても強調します。

### 新しいシステム要件と前提条件

Shavlik Protect 9.1 では、次のコンソール要件と前提条件に注意してください。

- Microsoft .NET Framework 4.5 以降。この前提条件ソフトウェアがインストールされていない場合、アップグレード処理中に Microsoft .NET Framework 4.5.1 がインストールされます。
- Windows Management Framework 4.0 (Windows PowerShell 4.0 を含む)。Windows 8.1 および Windows Server 2012 R2 には既に PowerShell 4.0 がインストールされているため、これらのオペレーティング システムにはこの前提条件は適用されません。

不足している前提条件ソフトウェアはすべて、アップグレード処理中に自動的にインストールされます。システム要件の詳細な一覧については、『Shavlik Protect インストール ガイド』を参照してください。

**メモ:** Windows XP Professional、Windows Vista、Windows Server 2003 Family、および Windows Server 2008 Family は、コンソール オペレーティング システムとして使用できなくなりました。また、X86 プラットフォームもコンソールとして使用できなくなりました。

## アップグレード を実行するた めのユーザ ア カ ウ ン ト 要 件

アップグレードを実行するには、ユーザ アカウントが次の要件を満たしている必要があります。

- データベース アップグレードを実行するユーザは、db\_owner ロールのメンバーでなければなりません。
- 複数のコンソールがデータベースを共有し、別のコンソールがアップグレード済みのデータベースにリンクしている場合、使用するユーザ アカウントは、db\_datareader、db\_datawriter、STExec、および STCatalogupdate データベース ロールのメンバーでなければなりません。また、バックグラウンド サービスで 사용되는 サービス アカウントも、これらのロールのメンバーでなければなりません。アカウントが db\_securityadmin および db\_accessAdmin のメンバーである場合、データベース アップグレード ツールは必要なロールを自動的にマッピングして構成しようとします。

# アップグレード手順

---

## 概要

ここでは、VMware vCenter Protect 8.x または Shavlik Protect 9.0 から Shavlik Protect 9.1 にアップグレードする方法について説明します。アップグレードの際に、Migration Tool を使用してコンソールを新しいコンピュータに移行する場合は、アップグレードを実行する前に、『Shavlik Protect Migration Tool ユーザ ガイド』を参照してください。

アップグレードを実行する前に、必ず、16 ページの「重要な変更と機能強化」セクションに目を通し、アップグレードによるシステムへの影響を理解してください。

**メモ:**現在、8.x よりも前のバージョンを使用している場合は、バージョン 9.1 にアップグレードする前に、バージョン 8.x にアップグレードする必要があります。次のリンクを使用して、バージョン 8.0.2 をダウンロードしてください。

<http://www.shavlik.com/downloads.aspx>

## アップグレードの実行

1. スキャン結果、パッチ配布結果、および脅威修正結果を保存するためのデータベースを圧縮します。

SQL Server Management Studio で、ShavlikScans データベースを右クリックし、[タスク] > [圧縮] > [データベース] の順に選択します。

2. SQL Server Management Studio を使用して現在のデータベースのバックアップを作成します。
3. Shavlik Protect または VMware vCenter Protect などのコンソール コンピュータを実行するすべてのプログラムを終了します。
4. 次のリンクを使用して、Shavlik Protect 9.1 実行ファイルをコンソール コンピュータにダウンロードします。

<http://www.shavlik.com/downloads/>

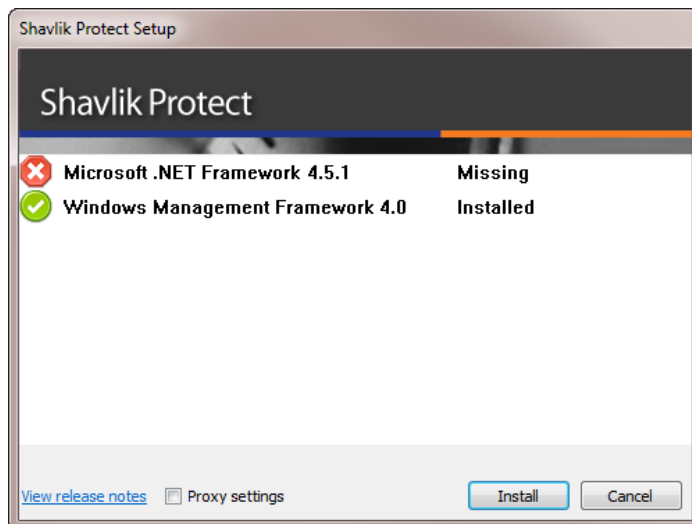
5. 次の方法のいずれかでインストール処理を開始します。

- **ShavlikProtect.exe** ファイルをダブルクリックします。
- コマンド プロンプトにファイル名を入力します。これで、1 つ以上のコマンドライン オプションを使用できます。きわめて大規模なデータベースをアップグレードする場合には、この方法を検討してください。DBCCommandTimeout オプションは、インストール中に SQL コマンド タイムアウト値を指定するために使用されます。既定値は GB につき 15 分 です。最低タイムアウト値は、GB につき 15 分または 1800 秒 (30 分) の大きい方の値です。4 GB のデータベースの場合、タイムアウト値を 3600 秒 (60 分) に上げる必要があります。  
例:

```
ShavlikProtect /wi:"DBCCommandTimeout =3600"
```

6. アップグレードを続行するかどうかを確認するダイアログに応答します。

[はい] をクリックすると、次のようなダイアログが表示されます。



7. [インストール] をクリックし、インストールされていない前提条件をインストールします。

インストール処理のこの段階で、セットアップ ウィザードが再起動を実行しなければならない場合があります。再起動が必要な場合は、コンピュータが再起動すると、[セットアップ] ダイアログが再表示されます。もう一度 [インストール] をクリックして、アップグレードを続行します。

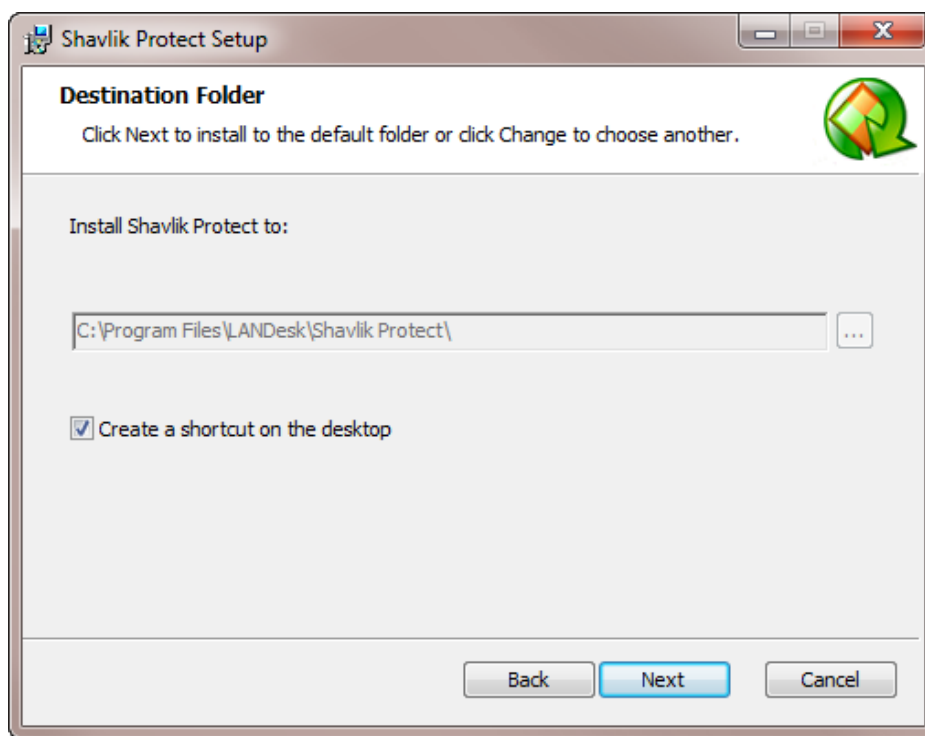
[よろこそ] ダイアログが表示されます。

8. [よろこそ] ダイアログの情報をお読みになってから、[次へ] をクリックします。

使用許諾契約が表示されます。プログラムをインストールするには、使用許諾契約の条項に同意する必要があります。

9. インストールを続行するには、**[次へ]** をクリックします。

**[インストール先フォルダ]** ダイアログが表示されます。



10. プログラムの既定の場所を変更する場合は、**[参照]** ボタンをクリックし、新しい場所を選択します。また、デスクトップにショートカット アイコンをインストールすることもできます。完了したら、**[次へ]** をクリックします。

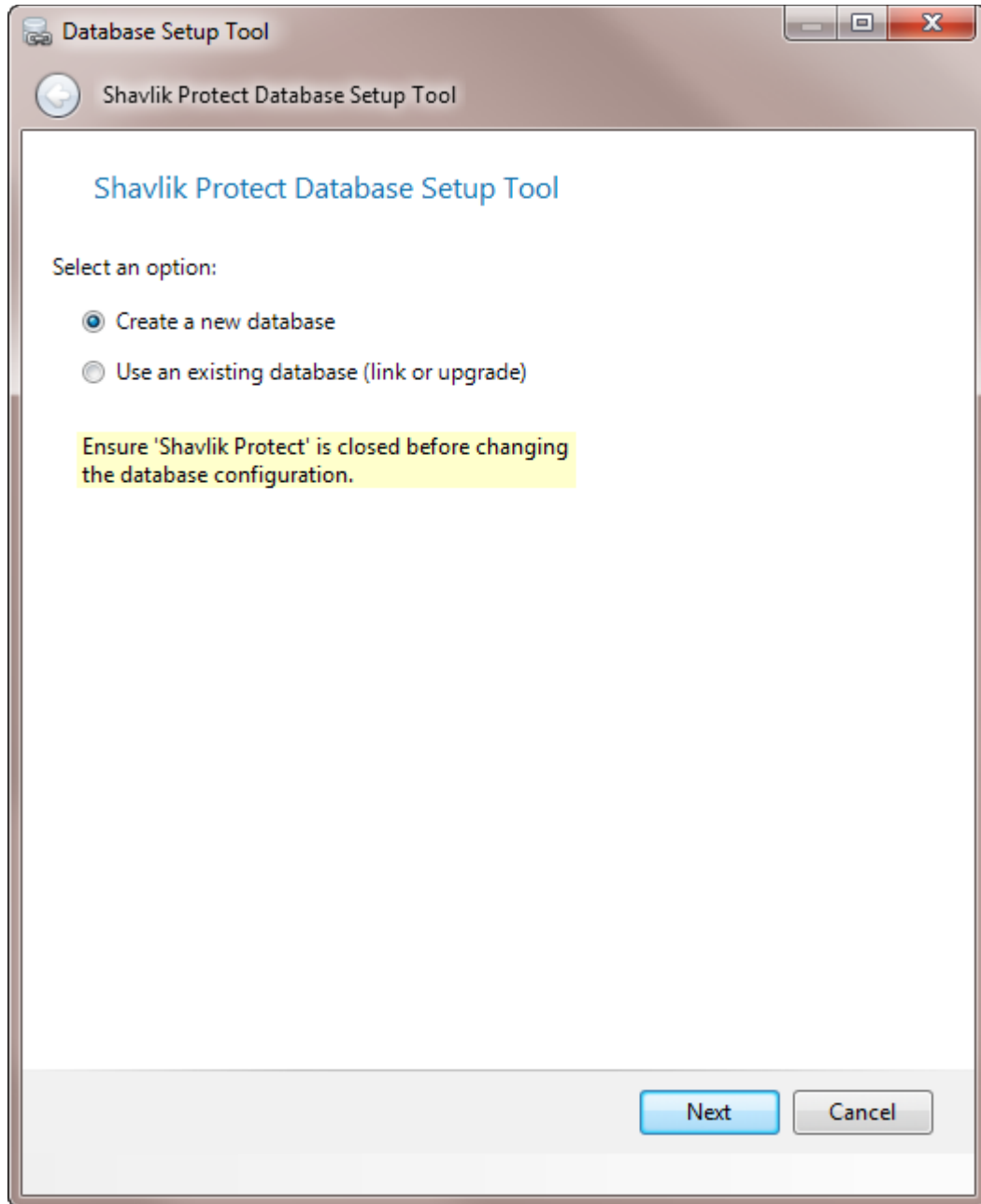
**[製品改善プログラム]** ダイアログが表示されます。説明をお読みにになり、プログラムに参加することに同意するかどうかを決定します。このプログラムでは、Shavlik が、今後の製品バージョンを改善する目的で、製品の使用状況情報を収集できます。

11. **[次へ]** をクリックします。

**[インストール準備完了]** ダイアログが表示されます。

12. インストールを開始するには、**[インストール]** をクリックします。

インストール処理が終わりに近づくと、**[データベース セットアップ ツール]** ダイアログが表示されます。



**重要!** 次のステップでは、**「新しいデータベースを作成する」** を選択しないでください。選択した場合は、新しいデータベースが作成され、既存のデータが使用されません。

13. 必ず **「既存のデータベースを使用する」** を選択し、**「次へ」** をクリックします。

次のようなダイアログが表示されます。



Database Setup Tool

Shavlik Protect Database Setup Tool

### SQL Database Configuration

**Choose a database server and instance**

Server name: JOE-DELLWIN7\SQLEXPRESS

Database name: Protect

**Choose how interactive users will connect to the database**

Authentication method: Integrated Windows Authentication

User name:

Password:

Test server connection

**Choose how services will connect to the database**

Using Integrated Windows Authentication with remote databases requires Kerberos.

Use alternate credentials for console services

Authentication method: Integrated Windows Authentication

User name:

Password:

Next Cancel

- 指定されたボックスを使用し、ユーザおよびサービスが SQL Server データベースにアクセスする方法を定義します。

#### データベース サーバとインスタンスの選択

- サーバ名: コンピュータを指定するか、コンピュータおよびコンピュータで実行中の SQL Server インスタンスを指定できます。
- データベース名: 使用するデータベース名を指定します。バージョン 8.0 以降の既定のデータベース名は、**Protect** です。

## ユーザによる対話方式でのデータベース接続方法の選択

ユーザがデータベースへのアクセスを必要とする処理を実行するときに、プログラムで使用する認証資格情報を指定します。

- **統合 Windows 認証:**これは推奨される既定のオプションです。Shavlik Protect は現在ログインしているユーザの認証資格情報を使用して、SQL Server データベースに接続します。[ユーザ名] および [パスワード] ボックスは使用できません。
- **特定の Windows ユーザ:**SQL Server データベースがリモート コンピュータにある場合にのみ、このオプションを選択します。データベースがローカル (コンソール) コンピュータにある場合は、このオプションの効果はありません。(ローカル コンピュータ認証資格情報の詳細については、『**Shavlik Protect 管理ガイド**』の「**認証資格情報の指定**」を参照してください。)すべての Shavlik Protect ユーザは、リモート SQL Server データベースを操作する必要がある処理を実行するときに、指定された認証資格情報を使用します。
- **SQL 認証:**このオプションを選択すると、指定された SQL Server にログインするための特定のユーザ名およびパスワードの組み合わせを入力できます。

**注意!**SQL 認証資格情報を指定し、SQL 接続の SSL 暗号化が実装されていない場合、認証資格情報はクリア テキスト形式でネットワーク上に渡されます。

- **データベース接続のテスト:**指定したインタラクティブ ユーザ認証資格情報を使用してデータベースに接続できることを検証するには、このボタンをクリックします。

## サービスによるデータベース接続方法の選択

データベースに接続するときに、バックグラウンド サービスで使用する認証資格情報を指定します。SQL Server にログインし、ステータス情報を提供するために、結果のインポート ユーザ、エージェント処理、および他のサービスが使用する認証資格情報があります。

- **コンソール サービスで別の認証資格情報を使用する:**
  - SQL Server データベースがローカル コンピュータにインストールされている場合、一般的に、このオプションを無視するには、チェック ボックスをオフにします。この場合、インタラクティブ ユーザに対して指定した認証資格情報および認証モードが使用されます
  - 通常、SQL Server データベースがリモート コンピュータにある場合にのみ、このチェック ボックスをオンにします。データベースがリモート コンピュータ上にある場合、リモート データベース サーバのデータベースで認証できるアカウントが必要です。
- **認証方法:**[コンソール サービスで別の認証資格情報を使用する] が有効な場合にのみ使用できます。
  - **統合 Windows 認証:**このオプションを選択すると、リモート SQL Server に接続するためにコンピュータ アカウントが使用されます。認証資格情報を

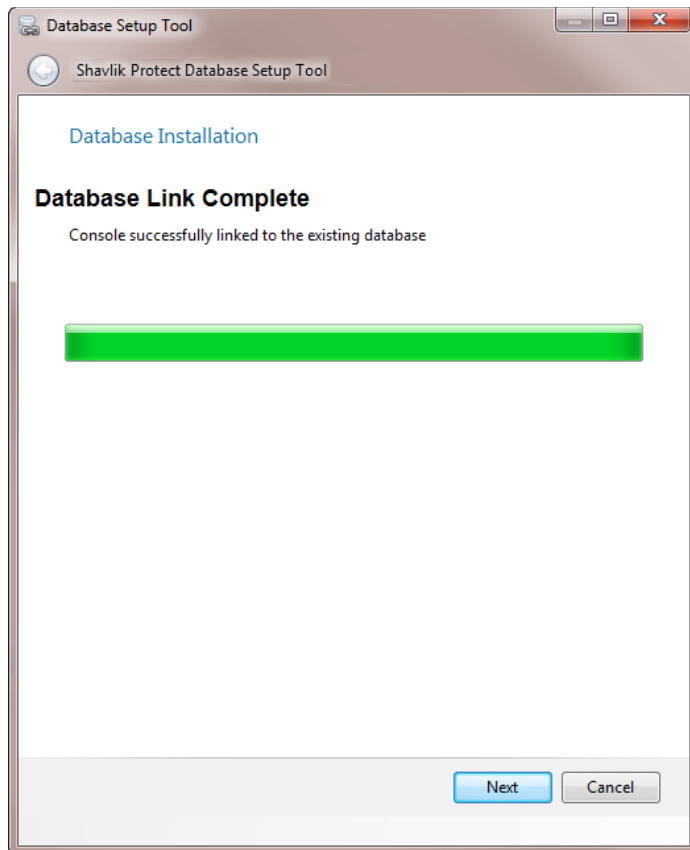
安全に送信するためには、Kerberos ネットワーク認証プロトコルが使用できなければなりません。[ユーザ名] および [パスワード] ボックスは使用できません。

**メモ:** [統合 Windows 認証] を選択した場合、コンピュータ アカウントで SQL Server ログイン情報を作成使用とします。アカウント作成処理が失敗した場合、リモート SQL Server を手動で構成し、コンピュータ アカウント認証資格情報を許可する手順について、『Shavlik Protect 9.1 インストール ガイド』の「SQL Server のインストール後の注記」を参照してください。この手順は、Shavlik Protect のアップグレード処理が完了した後、プログラムを起動する前に実行します。

- **特定の Windows ユーザ:** これにより、特定のユーザ名およびパスワードの組み合わせを指定できます。Shavlik Protect のバックグラウンド サービスでは、これらの認証資格情報を使用して、SQL Server データベースに接続します。これは、何らかの理由により、統合 Windows 認証を実装できない場合、優れたフォールバック オプションになります。
  - **SQL 認証:** このオプションを選択すると、SQL Server にログインするときに使用するサービスで、特定のユーザ名およびパスワードの組み合わせを指定します。
15. すべての必須情報を入力した後、[次へ] をクリックします。

**メモ:** インストール プログラムで、指定した認証資格情報に関する問題が検出された場合、エラー メッセージが表示されます。通常、これは指定したユーザ アカウントが存在しないことを示します。修正してから、再試行してください。

コンソールは既存のデータベースにリンクされます。リンク処理が完了すると、次のダイアログが表示されます。



16. [次へ] をクリックします。
17. [インストール完了] ダイアログで [完了] をクリックします。
18. [Shavlik Protect セットアップ ウィザードの完了] ダイアログで、[Shavlik Protect を起動する] チェック ボックスをオンにし、[完了] をクリックします。

## コンソールで実行されるアップグレード タスク

アップグレードを完了するには、Shavlik Protect コンソールで次のタスクを実行する必要があります。

### コンソールへのエイリアスの割り当て

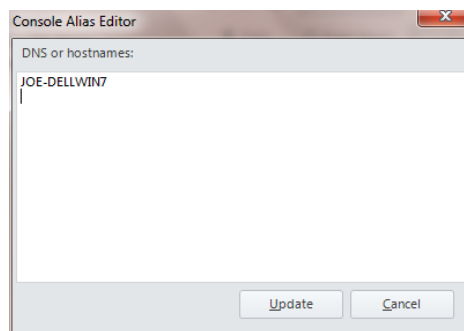
このタスクは、エージェントを使用し、次の条件のいずれかが該当する場合にのみ必要です。

- コンソール コンピュータを新しいドメインに割り当てた
- コンソールの新しい共通名または IP アドレスを指定した
- エージェントを手動でインストールし、エージェントが IP アドレスを使用してコンソールと通信する

このような条件に該当する場合、**コンソール エイリアス エディタ** ツールを使用して、古いコンソール名とアドレスを信頼できるエイリアスに指定する必要があります。この作業を行わない場合、エージェントが Shavlik Protect コンソールにチェックインするときに、接続したコンピュータが信頼できるコンピュータであることを検証できません。

1. [ツール] > [コンソール エイリアス エディタ] を選択します。

[コンソール エイリアス エディタ] ダイアログが表示されます。現在コンソール名を識別するために使用される名前と IP アドレスが表示されます。例：

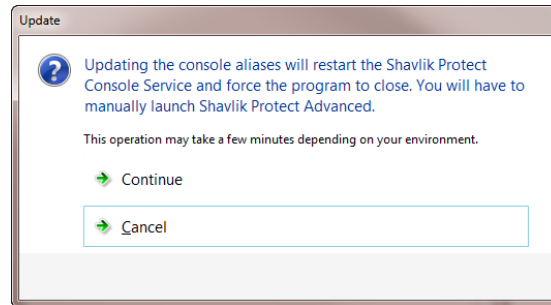


2. コンソール コンピュータのエイリアスとして使用する名前または IP アドレスを入力します。

IPv4 または IPv6 形式を使用して、IP アドレスを指定できます。

3. [更新] をクリックします。

次のダイアログが表示されます。



コンソール エイリアスを更新するには、コンソール サービスを再起動する必要があります。Shavlik Protect を閉じてから手動で再起動する必要があります。

**重要!** エージェントは、再起動したコンソールにチェックインするまで、新しいエイリアスを認識しません。チェックインは、エージェントによって手動で開始するか、エージェント クライアント プログラムまたはスケジュールされたチェックイン経由で手動で開始する必要があります。コンソールからエージェントに発行されたチェックイン コマンドでは、コンソール認証資格情報は更新されません。

## 配布サーバの同期

最新のパッチ、スキャン エンジン、およびコンソールに含まれる XML 定義ファイルを使用して、配布サーバを更新する必要があります。エージェントが配布サーバを使用してこれらのファイルをダウンロードする場合、この作業が特に重要です。エージェントがチェックインを実行する前に、配布サーバが更新されたコンソール ファイルと同期する必要があります。

配布サーバを同期するには：

1. [ヘルプ] > [ファイルの更新] を選択し、コンソールに最新のファイルがすべて含まれていることを確認します。
2. [ツール] > [処理] > [配布サーバ] の順に選択します。
3. 上部ウィンドウの [スケジュールされた同期の追加] ボックスで、同期するコンポーネントを選択します。
4. 上部ウィンドウで、コンソールと同期する配布サーバを選択します。
5. [スケジュールされた同期の追加] をクリックします。
6. 同期を実行するタイミングを指定し、[保存] をクリックします。
7. [自動同期のスケジュール] ウィンドウで、スケジュールされた同期エントリを選択します。
8. [今すぐ実行] をクリックします。

配布サーバとの同期を完了する前にエージェントがチェックインしない場合でも、問題はありません。次回、スケジュールされたタスクが実行される時、またはエージェントがバイナリを更新するときに、エージェントが更新されます。

## ライセンスの更新 (オフライン コンソールのみ)

コンソールがオフライン (インターネット接続がない) の場合、Shavlik Protect 9.1 の新機能を表示および使用するには、ライセンスを手動で更新する必要があります。オフライン コンソールの認証については、ヘルプ システムの [インストールと設定] > [製品の使用開始] > [プログラムの認証] を参照してください。

コンソールがオンラインの場合、アップグレード処理中にライセンスが自動的に更新されます。

## データ ロールアップ コンソール間のセキュリティを再確立する

複数のコンソールを使用し、データ ロールアップ構成が実装されている場合、セントラル コンソールと各リモート コンソール間のセキュリティ関連付けを再確立する必要があります。これは、v9.0 以降で使用される証明書が異なるためです。新しい証明書は以前のバージョンの証明書よりも強力であり、セキュリティが強化されています。

**重要!** アップグレード処理を開始すると、セントラル コンソールとリモート コンソールの両方がアップグレードされ、2 つのコンソール間のセキュリティ関連付けが再確立されるまで、データ ロールアップ アクティビティが実行されません。このため、データ ロールアップ アクティビティがほとんど発生しないと想定されるタイミングで、コンソールを順次アップグレードすることを強くお勧めします。

セキュリティ関連付けを再確立するには:

1. セントラル コンソールをアップグレードします。
2. セントラル コンソールの設定を .drs ファイルにエクスポートします。
  - a. [ツール] > [処理] > [データ ロールアップ] を選択します。
  - b. [データ ロールアップ ファイル設定ファイルの構成] 領域で、セントラル コンソールの IP アドレスを選択します。
  - c. [設定のエクスポート] をクリックし、ネットワーク共有またはリムーバブル メディアにファイルを保存します。
3. 各リモート コンソールをアップグレードします。
4. 各リモート コンソールで、セントラル コンソールの設定をインポートします。
  - a. [ツール] > [処理] > [データ ロールアップ] を選択します。
  - b. [設定のインポート] をクリックし、セントラル コンソールからエクスポートされたデータ ロールアップ設定 (.drs) ファイルを開きます。

データ ロールアップの詳細については、ヘルプ システムの [複数コンソールの管理] > [データ ロールアップ構成] を参照してください。

## SHAVLIK PROTECT 9.1 の重要な変更と機能強化

---

### ローカライズされたコンソール経験

現在、Shavlik Protect は次の言語に翻訳されています。中国語（簡体）、中国語（繁体）、フランス語、ドイツ語、イタリア語、日本語、韓国語、ポルトガル語（ブラジル）、ロシア語、およびスペイン語。

### ローカライズされた SafeReboot

SafeReboot ダイアログがローカライズされ、上記の言語をサポートするようになりました。クライアント コンピュータのオペレーティング システムの言語によって、表示言語が変わります。オペレーティング システムの言語がサポートされていない場合、SafeReboot ダイアログの既定の言語は英語になります。

### オンライン ヘルプ

翻訳バージョンのヘルプ システムが Web 上で使用できるようになりました。ヘルプ テキストは、[表示オプション] ダイアログで指定された言語でローカライズされます。コンソールからローカライズされたヘルプ テキストを表示するには、インターネット接続が必要です。直接インターネットに接続していない環境向けに、製品には英語バージョンのヘルプ システムが付属しています。このヘルプ システムはコンソールでローカルに使用できます。

### IPv6 サポート

Shavlik Protect は IPv6 をサポートするようになりました。IPv4 は引き続き UI で表示される優先 IP スキーマであるため、IPv6 をオンにし、まだ IPv6 を利用していない環境では、IPv4 がコンピュータで表示される既定のアドレスになります。

### レポート ビュー

このリリースに合わせ、SQL Server データベース クエリ内でデータベース ビューを使用して Shavlik Protect のカスタム レポートを生成する方法を説明した、『レポート ビュー ガイド』が提供されています。これによって、SQL Reporting Services、Crystal Reports、Splunk などの他社のツールを使用して、Shavlik Protect のレポートを作成できます。

### 移行ツール

このリリースに合わせ、既存の Shavlik Protect コンソールを新しいコンピュータに移行するプロセスを簡素化するための移行ツールが提供されています。移行ツールは既存のコンソールからコアおよびユーザ データを取り込み、新しい Shavlik Protect システムに再書き込みします。



---

## FQDN および IP のみの環境におけるコンピュータ解決の改善

お客様の環境でコンピュータを解決するために FQDN または IP が必要な場合に備え、コンピュータ解決機能が大幅に強化され、各コンピュータで複数の解決方法を保持できるようになりました。FQDN、ホスト名、および IP のすべてを試行して、コンピュータが正しく解決されていることを保証できます。

---

## ベンダー重要度別のスキャン

パッチ スキャン テンプレートと評価エンジンが更新され、フィルタが追加されたため、ベンダーの重要度別にスキャンできるようになりました。現在では、緊急、重要、中、低、または未割り当てのセキュリティ パッチ、あるいはセキュリティ以外のパッチごとにスキャンできます。

---

## 配布ワークフローの機能強化

配布ワークフローが統合され、配布プロセスに存在していた多数の分岐が削減されました。配布を実行すると、スケジュールされた配布と同じレベルの詳細が表示されます。配布結果は、配布の完了後に表示することもできます。

---

## 処理監視と配布追跡のコンピュータ レベルのステータス

コンピュータ レベルのステータスが配布フローに追加されました。このため、現在の配布の状態をより明確に把握できるようになりました。

---

## 配布の戻りコード

配布追跡と配布レポートでは、配布の戻りコードが表示されるようになりました。Shavlik Protect UI で戻りコードを使用できるようにすると、戻りコードを検索してターゲット コンピュータのログを細かくチェックする必要がなくなります。

---

## Active Directory (AD) の機能強化

Shavlik Protect は、コンソール コンピュータのドメインにブロードキャストしている Active Directory フォレストおよびドメインを検索できるようになりました。さらに、別のフォレストとドメインを追加し、これらの項目の認証資格情報を保存できるようになりました。これにより、毎回再接続せずに、これらの項目を参照できます。